

○スリランカ — 諸宗教間の対話が治安維持のための手段○

Zenit - 2019年4月26日

今年の復活祭にスリランカで起こったテロ事件は同国を恐怖と不安に陥れた。昨日、4月25日、諸宗教評議会の副書記、インドゥニル・ジャナカラ神父 Indunil Janakara はバチカンニュースに現在の状況について解説した。

Efe 通信によれば、4月23日イスラム国が同事件の犯行声明を出した後、当局はこのテログループと関係のある130人の容疑者を洗い出し、そのうち70人をすでに逮捕していると発表した。

これに関して、ジャナカラ神父はこのテロ事件が同国の異なる宗教（仏教徒、ヒンドゥー教徒、イスラム教徒、キリスト教徒）間に反感を生み出したことも考慮に入れねばならないと指摘した。そして「反感を克服するため」「傷を癒やすため」「橋をつけるため」に宗教間の対話がこれまでになく必要であると主張した。同時に、同評議会がその対話に参加するためにスリランカのカトリック教会に全面的に協力する決意であると表明した。

葬 儀

Il Foglio 紙の記者マテオ・マツォツィによれば、テロでなくなった250人のカトリック信者の多くの葬儀が今週、昨日25日までに執り行われた。補佐司教と司祭たちが国中に配分されて司式し、いくつかの儀式は安全を考えてグループで行われた。

今のところ、教会は司祭と信者の安全のために閉鎖されている。

国民の状況

スリランカの市民の状況に関しては、同国の司教協議会の議長ウィンストン・セバスチアン・フェルナンド司教が24日の二つの葬儀の後で、バチカンニュースに「私は神に感謝せねばなりません。というのは、人々が神の恵みに応えてくれ、落ち着きを保っているからです」と公言した。

同司教はまた、怒りを抑えきれない人もいるが、幸いにして「司祭と修道者、また多くの信徒も、この人々が落ち着いてこの不幸を受け入れ、過激な行動に出ないように働きかけることができている」と付け加えた。

犠牲者の数であるが、4月25日の段階で、スリランカの保健省が死者253人、負傷者は何百人という数字を出している。

(写真は、葬儀の様子)

